



## コロナ死者年間3万人を超える

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類となった、2023年5月~2024年4月の1年間で、死者数が計3万2576人に上ったと先日厚生労働省の人口動態計で発表されました。季節性インフルエンザに比べて約15倍と格段に多く、高齢者の方が大部分を占めています。

新型コロナは、ウイルスが次々と変異して高い感染力を持つうえ、病原性はあまり低下せず、基礎疾患のある高齢者の方が感染して亡くなっているとみられています。

### 感染リスクをへらすためには



- ・基本的な感染対策として、うがい、換気等を行いましょう。
- ・重症化を防ぐため、又感染後の後遺症を減らすためワクチン接種が推奨されています。

以前に新型コロナワクチンの予防接種をされていても、インフルエンザの予防接種と同様、その効果は一般的に約半年とされています。新しい変異株が出現すると、その変異株に対する防御力を強化するためワクチンの改良版が使用される場合もあります。また、一度新型コロナウイルスに感染していてもその抗体は一定期間を過ぎると減少してしまいます。ただし、ワクチン接種による副反応もあるため、メリット、デメリットを考えましょう。

### コロナワクチン接種の期待される効果



#### ・感染・重症化リスクを減少

治療薬が開発されたとはいえ、新型コロナウイルスに感染すると軽症で済む方もいますが、入院、また命に関わる重篤な方もいます。

感染した場合、特に高齢者の方は重症化リスクが高く、死亡するリスクはインフルエンザよりも高いほか、心臓や血管、呼吸器の病気のリスクが上るといったことが国内外の調査研究で報告されています。  
高齢者の方には新型コロナワクチンの接種を「強く推奨する」としています。

## ・感染拡大の減少

ウイルスは次々と変異するため流行の波は何度となく続きます。  
コロナワクチン接種により、感染や重症化を減少させることができると、感染拡大を防ぐことが期待できます。



接種する人が増えると個人の免疫力が高まり、集団感染の拡大を抑えることができる可能性があります。

コロナは風邪みたいなものと甘く見ていると、あっという間に感染は拡大します。  
一人一人の意識が大切です。

**堺市在住の 65 歳以上の方は  
堺市の助成で新型コロナワクチン・インフルエンザ予防接種を  
受けることができます。**

## ・対象者

- ・接種日において 65 歳以上の堺市民の方
- ・満 60 歳～65 歳未満の堺市民のうち、条件に該当する方  
(該当者に関する詳細は堺市ホームページにてご確認ください)



## ・実施期間

2024 年 10 月 1 日(火)～2025 年 1 月 31 日(金)

## ・自己負担金

新型コロナワクチン	3200 円
インフルエンザワクチン	1500 円

※自己負担金が免除される場合があります  
(免除される対象者につきましては、堺市ホームページにてご確認ください)



## ・接種可能な日時

午前診(月)～(土)	午前 9:00～12:00(受付は 11:30 まで)
午後診(月)(水)(金)	午後 4:30～7:00(受付は 6:30 まで)

※祝日は除く